

阿部英雄氏の御他界を悼む

阿部英雄氏は2007年7月10日、病床にはあったのですが、小鳥のさえずる早朝、自宅にて日常生活のまま奥様と御嬢様の見守るなかで安らかに旅立たれたとのことです。阿部氏は「明治大学文学部阿部英雄史学地理学科振興基金」をご寄付下さった方です。このところ毎年のように駿台史学会大会には、会場の壇上に立派なお花がかざられておりますが、それは阿部氏によるものでした。

阿部英雄さんは明治大学文学部史学地理学科東洋史専攻の卒業生で、卒業論文は「世説新語」とその思想——特に老荘思想について——でした。卒業後は研究の道も考えられていたようですが、実業界に入り「株式会社富士経済」をおこされました。阿部さんの誠実な人柄と深い洞察力にささえられ、現在は富士経済グループ（富士経済・富士経済マネジメント・富士キメラ総研・富士グローバルネットワーク・教育評論社・日本メディアリサーチ）として発展し、中国・アメリカには支所をおいて活動しています。阿部さんはその会長の職にありました。

また、阿部さんは情報産業の経営者であるとともに、詩人でもあり、俳人でもあり、作家としての仕事もあり、広く文化の担い手でした。阿部さんは1922年（大正11）7月静岡県沼津市に生まれ、少年時代父君より俳句の手ほどきをうけ、1940年（昭和15）頃には『ホトトギス』に投句しております。1946年（昭和21）中村草田男先生に師事、『萬緑』同人として今日に至っています。詩については『詩洋』において前田鐵之助先生に師事、先生のおなくなりになるまで指導をうけていました。『四季』では大木実先生にお教えをうけております。『東京四季』には創刊以来同人として参加しています。そして阿部さんの著作集としては詩集『丁卯集』巻一（1997



年）・巻二（2003年）、句集『浜風』（2001年）、エッセイ集『魚心集』（2005年）等々があります。

こうした阿部さんの詩句については、『丁卯集』巻一において大木実先生は

「丁卯集にみる阿部さんの詩は、自己形成の跡を辿り、歩いた歳月の足あとである。（中略）自己を、周辺を、過ぎてゆく時を、移り変わる世の現象をスタンスに置いて視ている。その眼は醒めている。醒めていて冷たくない。静かであって寂しい。寂しくて温かである。仏教に深く帰依することの慈悲の眼差しを感じる」とのべておられます。巻二では秋谷豊先生は「阿部さんは優れた経済人であると同時に、優れた詩人である。（中略）阿部さんは経済の上でも、詩の上でも広い視野の持ち主である。人間社会のなかにひそんでいる本質的な問題を、分析する洞察力がある。」と論じられております。いずれのお考えも同感させられるところです。

2007年8月25日、富士経済グループによる阿部会長の社葬が、大本山増上寺光攝殿において行われました。多くの方々の御参集があり盛大な葬儀でした。作家の方々と劇団関係の方々、多種多才の方々がおみえになっており、阿部さんの交遊がいかにかひろかったかがわかるものでした。そして、阿部基金によって「若い人々のすぐれた研究が大いに育成されております」という駿台史学会の弔電もここで披露されました。葬儀は壮大なものでしたが、それはおごそかにしてしめやかなもので、阿部さんらしい、阿部さんにふさわしい式であった。そんなおもいがいたしました。

阿部英雄氏の御冥福を心からお祈りして筆をおくことに致します。

（明治大学名誉教授 福田榮次郎）